



あかべこ

# 東日本大震災 福島大学における被災対応と課題

福島大学

副学長(研究担当)・附属図書館長  
高橋 隆行



三春駒



起き上がり小法師

2

## 福島大学の概要

### ＜沿革＞

昭和24年の創立以来、4万人を超える卒業生を教育界、官界、産業界に輩出。設立母体となつたのは、福島師範学校、福島青年師範学校、福島高等商業学校、福島経済専門学校で、通算すると福島において130年以上の歴史を刻んでいます。

### ＜学群・学類、大学院研究科の構成＞

【人文社会学群】人間発達文化学類 行政政策学類 経済経営学類 夜間主コース(現代教養コース)

【理工学群】 共生システム理工学類

【大学院】 人間発達文化研究科(M) 地域政策科学研究所(M) 経済学研究科(M)  
共生システム理工学研究科(M, D)

### ＜在籍学生数＞

約4,600人 学生の大半が大学近郊に居住しています。県内出身者(4割)・県外出身者(6割)

(参考)福島市の人口293,008人(平成23年3月現在)

### ＜附属学校園＞

約1,300人

【幼児・児童・生徒定員】附属幼稚園90人 附属小学校720人 附属中学校480人 附属特別支援学校60人

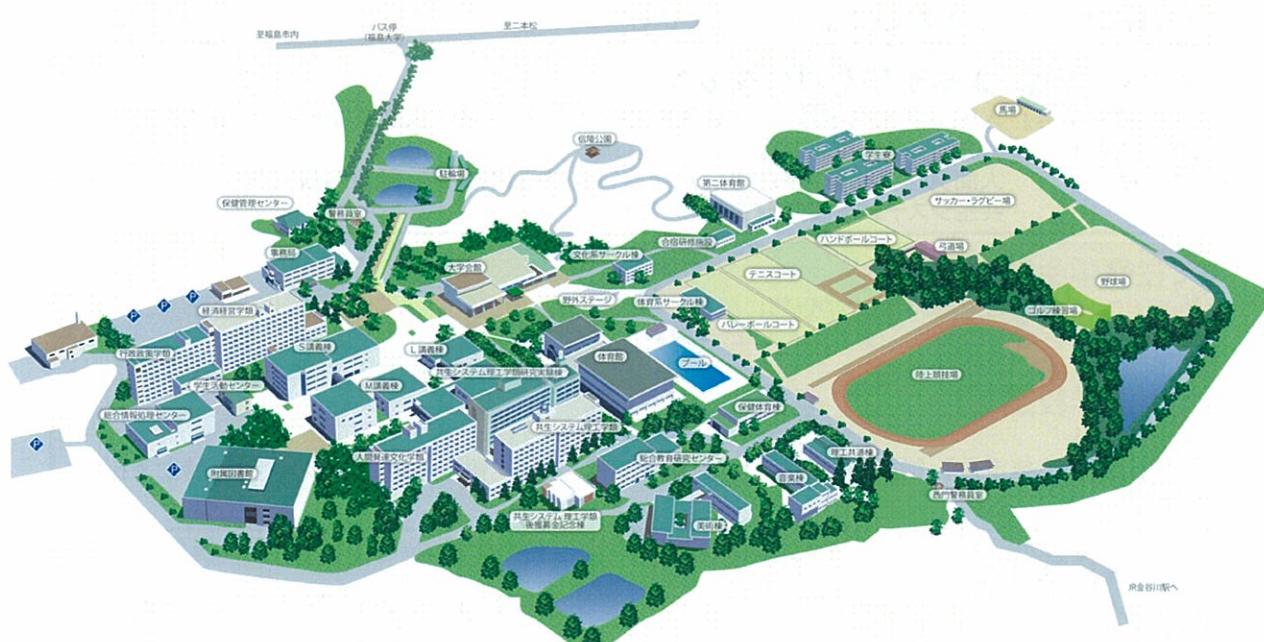
### ＜在職者数＞

約590人(非常勤を含む) 役員7人 教員244人 事務系職員130人 附属学校教員84人、ほか非常勤等



## キャンパスマップ

キャンパスは1か所にこじんまりとまとまっている(附属学校園を除く)



# 地震発生直後の対応

3月11日(金)の状況

- 2時46分 Mw9.0の地震発生、福島市は震度6弱
- 一般入試(後期日程)入試会場の設営中  
⇒ 講義は休講であった
- 図書館は館内整理作業のため臨時休館中  
⇒ 図書館内は少数の職員のみであった
- 修士論文、卒業論文の最終仕上げ段階
- サークル活動は通常通り

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 地震直後の状況

- 電気、ガス、下水道、インターネット
- × 上水道、携帯電話、道路(大混雑)



- ① まず、身を守る  
(机の下などへ)
- ② すばやく火の始末
- ③ 非常脱出口の確保

- ① 職員・学生の安否確認
- ② 建物損壊の状況確認
- ③ 建物内残留者の確認

- ① 帰宅指示
- ② 帰宅困難者のための仮宿泊場所の確保

福島大学「危機対応マニュアル」2010.4版

# 危機対策本部の立ち上げ

3月11日 「国立大学法人福島大学危機対策本部」を設置

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



# 初動対応（時系列）

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 3月11日

- 危機対策本部を設置
- 12日に実施予定の後期日程入試の中止を決定
- 建物の安全確認
- 職員に対して帰宅を指示
- 帰宅困難者のための仮宿泊所を設置
  - 職員、学生、下見中の受験生・保護者等、計約50人

## 3月12日

- 14日～15日まで臨時休校とすることを決定
- 臨時入試委員会を開催
- HPへの情報掲載を開始

## 3月13日

- 附属学校園の休校を決定

## 3月14日(午前) 危機対策本部会議

- 大学施設の被害状況、ライフラインの確認
- 入学手続きの変更を決定
- 後期日程入試対応を協議
- 構成員の安否確認を指示
  - 事務職員：事務局、教員・学生：学類、サークル合宿：顧問
- 卒業式の中止を決定
- 1日に2回(午前・午後)の対策本部会議を開催することを決定

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 3月14日(午後) 危機対策本部会議

- 学生寮の留学生の確認と対応を協議
- 附属学校園の卒業式・入学式等への対応を協議

## 3月15日(午前) 危機対策本部会議

- 福島県に対し一般被災者に対する避難所の開設を申し入れ
- 学生安否確認に関する情報交換
- 留学生に関する状況報告
- 大学周辺の学生の状況確認
  - 14日の夜にキャンパス周辺を巡回し、電気の点灯状況を確認

## 3月15日(午後)

- 事務体制の構築
- 安否確認等

### 3月16日(午前)

- ・入学式の延期と休講の期限について意見交換
- ・学生の帰宅支援について検討

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

### 3月16日(午後)

- ・入学式の延期と休講の期限について決定
- ・大学HPを災害対応に変更  
➢ 携帯電話で読みやすいようテキスト・ベースのものに変更
- ・県から避難所開設を要請

### その後のライフラインの復旧状況

#### ●大学キャンパス

- ・電気、ガスは3/11の震災時から使用可
- ・上水道4/5から全て復旧(3/19頃から徐々に復旧)
- ・中水は4/22から全て復旧(研究棟では地震直後から利用可)
- ・JR東北本線の復旧は4/5より暫定ダイヤで運転

#### ●附属学校園

- ・電気、ガスは震災直後から使用可
- ・水道は3/23復旧

#### ●その他

- ・ガソリンは3/29頃からほとんど並ばずに購入可

## 安否確認

### 3月23日

- ・大学、附属学校園の学生**全員の無事を確認**  
➢ 学生4,659人(うち留学生177人)、附属学校園生徒等1,357人

2011年3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

#### 安否確認の方法:

- 電話、電子メールで大学から連絡
- 大学ホームページとテレビテロップで「大学に連絡をするように」とのメッセージを流す
- 連絡がとれた学生から友人の情報の聞き取り

#### 分担体制:

ゼミ(研究室)所属の学生は担当教員  
未所属の学生は学類と教務課  
留学生は学生課

### 留学生の動向

- ・在籍177人中約150人が一時帰国。福島に残留6人。
- ・4月以降、退学・除籍(5人、原発を明示2名)、休学13人／155人

### 附属学校園の動向

- ・入学辞退4人(幼稚園、小学校)、転学45人(全4校園、内31人が附属小学校)

# 建物の被災状況

## 建物等被災状況

- ・建物倒壊は無し
- ・要注意建物10棟 他  
建物被害額 約7,000万円  
設備被害額 約2,300万円



教員研究室



附属図書館書架



附属特別支援学校



海の家(いわき市四倉)

# 非常災害発生時対応備蓄品

防災用アルミブランケット	300個
毛布	130枚
毛布用保存パック(2枚入り)	9セット
乾パン	1006缶
飲料水(2リットル)	1004本
洗浄用水(2リットル)	516本

大学生協が、菓子パン、日用品、炊き出し(おにぎり)やお菓子の無償提供を実施。対象は寮生、大学周辺の学生(職員もいただけた)。

支援物資到着後はその一部を生協にも提供。

# 他大学等からの人的・物的支援

## ① 他地区の国立大学から支援物資

北海道大学、北海道教育大学、旭川医科大学、小樽商科大学、  
 室蘭工業大学、新潟大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、  
 福井大学、富山大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、  
 愛知教育大学、滋賀大学、広島大学、鳥取大学、九州大学、  
 福岡教育大学、九州工業大学、佐賀大学、琉球大学、  
 長崎大学、大分大学、熊本大学、  
 宮崎大学、鹿児島大学、鹿屋体育大学



## ② 静岡大学から放射線測定機器貸与

サーベイメータ10台、ポケット線量計24台  
 ⇒ 大学・附属学校園・福島市教育委員会で有効に活用

## ③ 他国立大学から施設課に技術職員を派遣

秋田大学から1名、弘前大学から4名（各1週間）

各大学からご提供  
頂いた支援物資

## ④ 文部科学省から実務研修生を受入れ（7月）

# 授業再開まで

## ● 後期日程入試（3/12）：

筆記試験等は中止。センター試験の点数のみで評価、合格者決定。

## ● 入学手続き

全て郵送での受付のみ。入学意思確認の期限を4/15まで延長。

## ● 卒業式（3/25）

中止。学位記・卒業証明書は郵送。学長メッセージの同封。

## ● 学内諸施設の再開

3/25 総合情報処理センター

4/25 附属図書館

## ● サークル活動の再開（4/24）

学生からの申請に基づき再開を許可。

## ● 新入生を迎える会（5/9）

通常の入学式に代わり「新入生を迎える会」を挙行。開会にあたり1分間の黙祷。閉会後、放射線に関する講演会の実施。

## ● 授業再開（5/12）

夏季休業は例年通りの日程。9月に補講措置。後期の授業日程は例年通り。

## 在学生・受験生への対応

- 平成23年度一般入試(後期日程)についてお知らせ(3.12:学長)
  - 学生寮の退寮期限および入寮可能日の変更について(3.17)
  - 平成22年度学位授与:学長送別のことば(3.25:学長)
  - 新入生のための授業料減免について(3.25)
  - 学長メッセージ(新入生・在学生への呼びかけ)(3.31:学長)
  - 東北地方太平洋沖地震により被災した学生の採用及び就職活動への配慮に関する要請について(3.24:学長)
  - 福島大学キャンパス内及び附属学校園の**放射線データの公開**(4.5)
  - 東日本大震災により被災した学生への就職支援について(依頼)(新4年生に対し5月から就職活動に関する交通費支援(上限12,000円)を実施)(4.6:学長)
  - 学長メッセージ(新入生・在学生・保護者の皆さまへ)(4.21:学長)
  - 附属特別支援学校、附属幼稚園で保護者向け説明会を実施(4.26)
  - **放射線対応マニュアル(学生版), 地震発生時の初動マニュアル(学生版)**(4.28:危機対策本部)
- 等

## 在学生・受験生への連絡手段

- ① 大学ホームページ
  - 大学からの情報発信のメインチャネルとして使用。
- ② テレビテロップ(3/31まで)
  - 初期の情報提供手段
- ③ Twitter
  - 大学生協が主催するtwitterに既に多くの学生が登録していたため、これを活用し、学生が日々どのようなことを思っているかのモニタリングを実施(モニタリング要員を1名確保)。
- ④ 電子メール
  - 学生との個別連絡、緊急連絡用。
- ⑤ 電話
- ⑥ 郵送
- ⑦ 人づて
  - 友人の情報提供

その他、学生寮や周辺アパート在住学生との連絡体制を確立

# 出勤確保と事業継続

## 震災直後の福島市内の状況

- ライフラインの停止(ガス・水道:3月下旬まで)
  - JRが不通(4月上旬まで)
  - バスは土・日ダイヤによる本数の縮小
  - ガソリン不足(5~6時間以上待ち、制限付)
  - 水・食料・生活物資不足
  - 原発への不安感
- 居住・家族安否の確認  
職員の通勤状況確認  
緊急事態発生時の連絡表確認

## 教職員の出勤確保

- 出勤、退勤時刻の柔軟な運用。
- タクシーの通勤利用を許可(ただしどうできるだけ乗合いをする)。
- ストレス(特に放射線)等を原因とする体調不良については柔軟に対応する。
- 宿直手当等の規定の新設。

- 東北地方太平洋沖地震の被災者に対する支援の協力について  
(依頼)(H23.3.18:文部科学省非常災害対策本部)
- 業務遂行のお願いと「屋内退避」発令時の対応について(H23.3.18:学長)
- 「屋内退避」発令時の対応について(H23.3.18:危機対策本部)
- 「屋内退避」指示に備え学内に居る者の把握について  
〈確認手順〉定時報告を実施(H23.3.21:総務課)
- 学長メッセージ「福島大学事務職員に向けて」(H23.3.22:学長)
- 勤務時間の弾力的な措置について(通知)(H23.3.22:学長)
- 通常利用の交通手段が通勤困難となった場合の取扱いについて  
(通知)(H23.3.24:総務担当副学長)
- 心療等の専門医の診察に係る取扱いについて(通知)(H23.3.28:学長)
- 講演会(H23.4.28)
  - ・「放射線被ばくの健康・影響について」(福島県放射線リスク管理アドバイザー、国立大学法人 広島大学原爆放射線医科学研究所長:神谷研二氏)
  - ・「大震災と大学・学生」(兵庫県震災復興研究センター代表理事、国立大学法人 神戸大学大学院工学研究科教授:塩崎賢明氏)

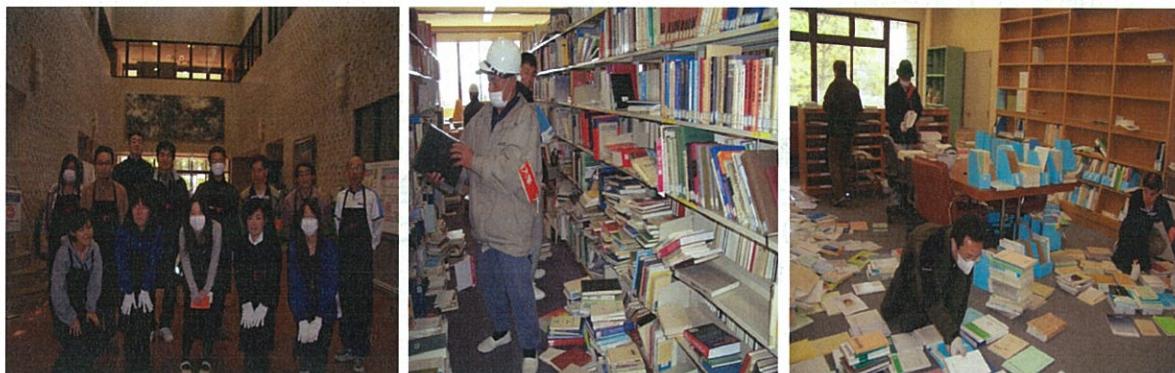
# 図書館復旧

## 落下資料の整理作業

○図書館復旧支援ボランティア

○3月25日～4月15日の間、延べ281人  
(土曜・日曜を除く16日間)

教員・生協	避難住民	学生・院生	合計
231名	48名	2名	281名



## 運営体制の見直し（緊急時対策グッズ）



原発事  
故

余震対  
策



危機管理の再確認



夜間・土日の  
体制への課  
題

## 施設の提供等

- ① 福島県職員の宿泊・仮眠・休憩用施設として福島市内の厚生施設「如春荘」、研修施設「街なかランチ舟場」を提供した。(5/11まで)
- ② 文部科学省等からの要請を受けて福島県災害対策本部に参集した放射線検査関係研究者等の宿泊・休憩用施設として附属特別支援学校を提供した。(4/3まで)
- ③ 計画的避難区域からの避難住民(飯舘村等から)に、本学職員宿舎「野田住宅(8戸)」を提供している。
- ④ 家屋損傷等による本学被災教職員4名が大学宿舎に入居した。

## 被災者支援活動

本学から福島県災害対策本部に避難所開設を申し出

○3月16日：避難所設営開始

○3月18日：受入開始

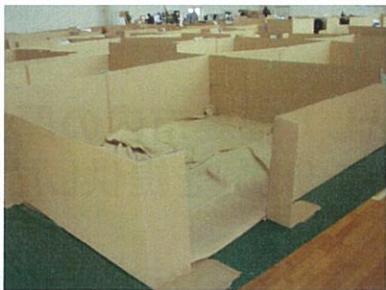
受入施設	最大受入数	延べ人数	期間
大学(金谷川地区)	126名	2,828名	4月30日まで
附属中学校(福島市内)	62名	333名	3月25日まで
附属小学校(福島市内)	3名		3月25日まで

○業務内容

- ・受入住民の窓口対応
  - ・県対策本部との連絡調整
  - ・支援物資の搬入作業
  - ・夜間(宿直)、土日(日直)
- } 日常業務

◎ボランティア学生の支援が大きな推進力となる

①避難所ブース作り



②生活物資マーケットコーナー



③ご飯の炊き出し



**【活動を通して感じたこと】**

- ・地震の被害をリアルに感じた
- ・大学を避難所としたことの意義
- ・救援物資について
- ・人の温かさ、つながりについて
- ・旧山古志村のボランティアに携わった方々との連携
- ・福島県の避難者の方の声がメディアで取り上げられない

④各種イベントの運営



⑤避難者から謝意の記念植樹



**今後の計画**

- ・福島大学避難所の運営(4/23まで、実態としては4/30まで)
- ・他の避難所の支援
- ・相馬、いわき等の津波の被害を受けた地域への支援
- ・「がんばろう福島！！」(仮)プロジェクトの発足

### 東日本大震災に伴うボランティア活動による単位認定について

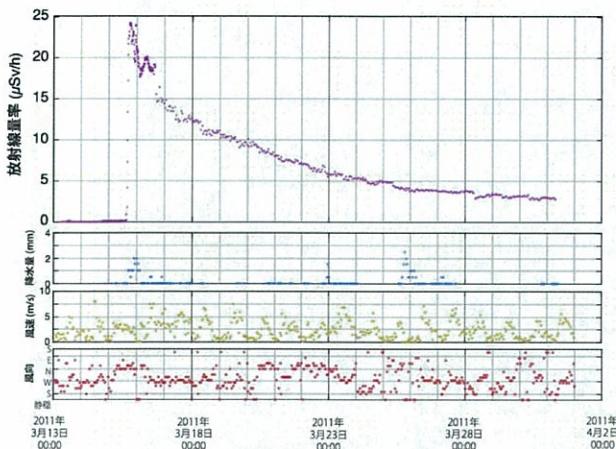
- 東日本大震災関連のボランティアに取り組む学生に対し、その活動時間数に応じて、単位認定を行うこととした。具体的な方法としては、以前から存在する自己学習プログラムの特例として、東日本大震災ボランティアの活動内容でプログラムの申請を可能にした。
- 自己学習プログラムは事前申請が原則だが、今回は震災発生直後からボランティア活動に取り組んでいた学生に配慮して、今年度前期の申請分については、すでに活動を終了したボランティア活動も申請を受け付けることとした。
- 東日本大震災関連のボランティアで認定される単位数は、ボランティア活動の合計時間が45時間程度で1単位、90時間程度で2単位となる。前期の申請は5月31日に終了したが、**全部で59名の申請**があった。
- 申請書によると、震災発生直後の3月から多くの学生が地元でボランティア活動に取り組んでいたことがわかった。これからボランティア活動を行う学生たちも、主に福島県内や近隣の宮城県内で様々なボランティア活動に取り組むことになる。学生たちが行うボランティア活動の具体的な内容としては、**避難所対応、がれき撤去、泥出し、災害住宅の片づけ、街頭募金など**である。
- このボランティア活動による単位認定は後期も引き続き実施する。
- 学生のボランティア参加を後押しすることで被災地支援につなげるとともに、本来の自己学習プログラムの目的である学生の自主性・主体性・社会性の育成に期待している。

**※自己学習プログラムとは…**

学生自身が学習課題を設定し、学ぶことに対する自主性・主体性を育成するとともに、集団の中で行動することのできる社会的能力を養うことを目的とする科目。

(教務課共通教育担当)

# 原発事故の経緯

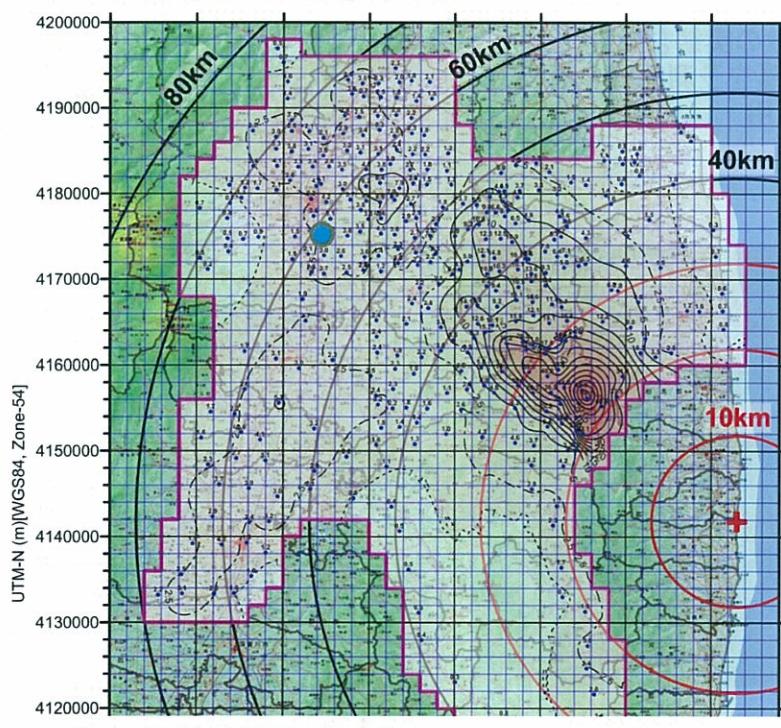


## 放射線対応を困難たらしめた理由

- 低線量被ばくの健康影響について、学術的評価が確立していない。
- 事故の推移見通しが全く立たない。

- 3月12日 8か所のモニタリングポストが機能していないとの報道。  
15:36 1号機で水素爆発。半径20km以内の住民に避難指示。  
3月13日 女川原発で通常の4倍の放射線量を観測。  
3月14日 3号機で水素爆発。  
3月15日 2号機で水素爆発。4号機でも爆発発生。  
夕刻より福島市内で高線量率を観測。  
3月16日 福島市の水道水からセシウムとヨウ素を検出。

# 地域の放射線計測 放射線対応①

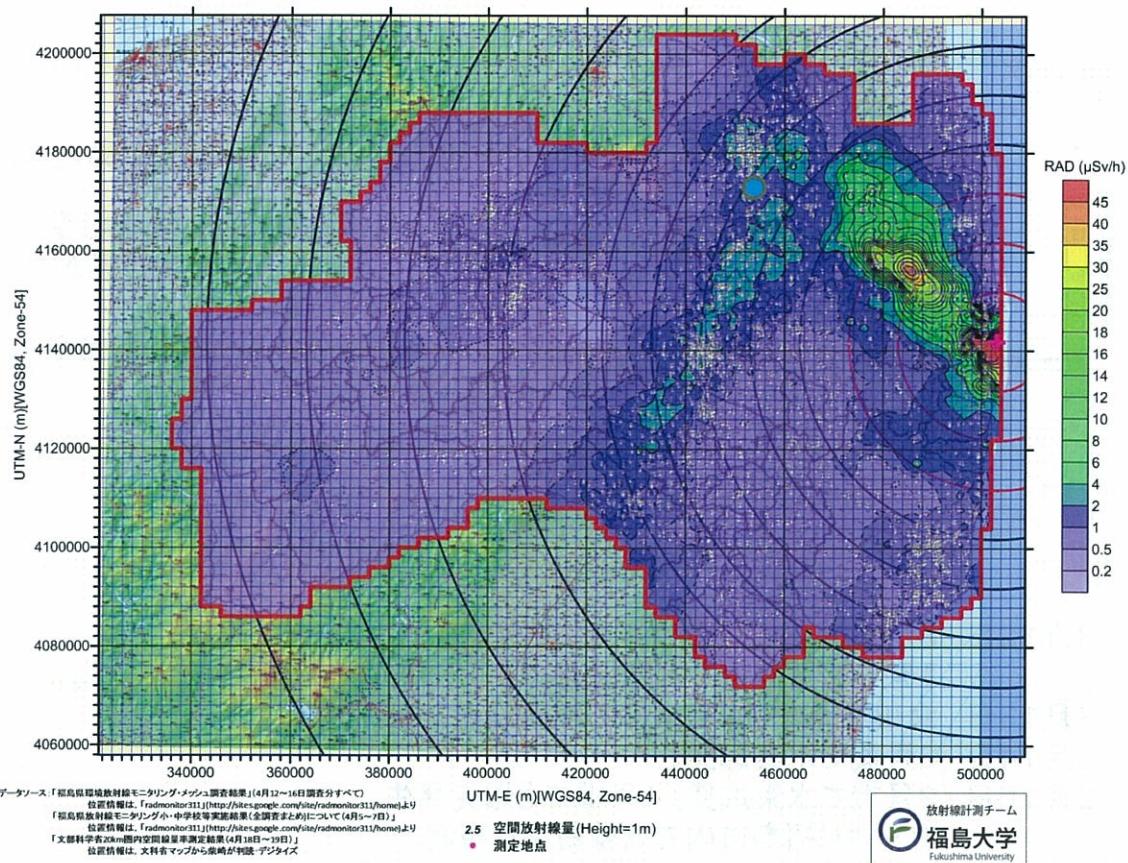


空間放射線量率マップ(3月25日～31日、30日の値に補正)

福島大学 共生システム理工学類では、可及的速やかに放射能汚染の状況を面として捉える必要性を痛感し、複数の教員チームによる地上サーベイを実施した(3月25日～31日、測定点約300)。図はその結果をマップとしたもの。

このマップは4月1日に完成したが、その公表は4月13日に行われた。

完成から公表までの約2週間に、関連する地元自治体や文部科学省への情報提供などを行った。



放射線量マップは随時アップデートしている（上図は4.19までのデータを用いて6.16に作成）

## ラジオゾンデによる大気の放射線観測

### 目的

- 放射能の大気中への放出・拡散の実態を把握
- 今後の地域や世界に及ぼす影響を予測地域の活動や復興計画の基礎資料として活用

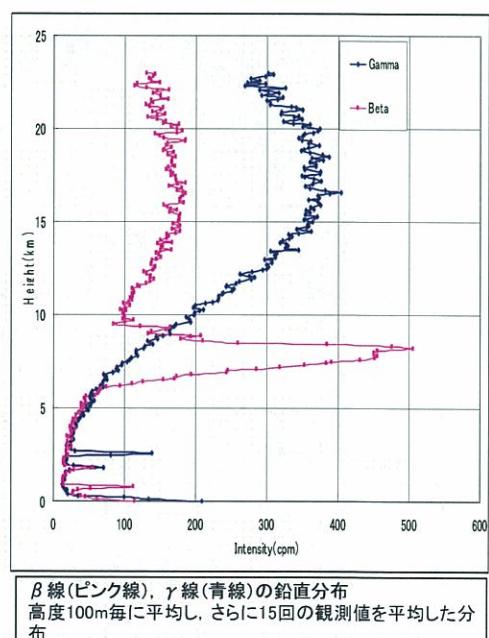
### 観測結果

- β線強度分布で高度6kmから8km付近のピークは一般に出現しないピークで、対流圏界面下部に今回の事故で放出された放射性物質が存在している可能性が高い。
- β線強度分布で高度2km付近のピークはγ線のピーク出現高度ともほぼ対応している。定常的ではなく、日によって高濃度が出現している。



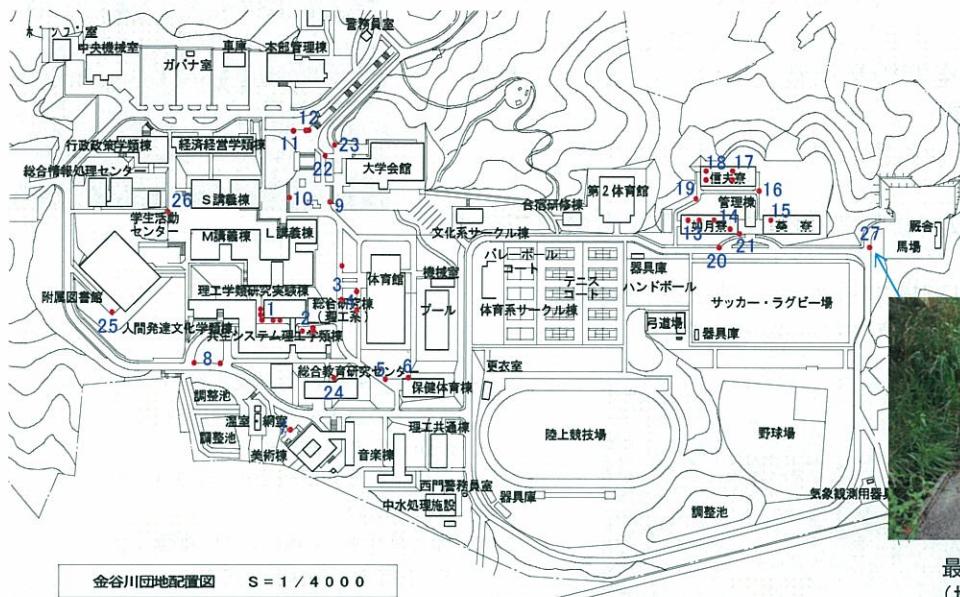
4/15 ラジオゾンデ打上げ

[http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/sonde\\_data/](http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/sonde_data/)



高層気象観測用ラジオゾンデ(RS92-SGP)にNSS921放射能センサーを接続し、地上から高度30kmまでのγ線、β線の鉛直強度(cps)分布を測定。NSS921放射能センサーは、2つのGeiger-Muller検出器を用いて、γ線とγ線、β線(0.25eMevより大きいエネルギー)を計測し、差し引いてβ線強度を計測。

# 学内の放射線計測と除染 放射線対応②



学内に存在する比較的線量の高い場所を特定し、その除染作業を進めている。



最も高い箇所で  $20.7 \mu\text{Sv/h}$   
(地上高10cm)

学内定点観測公開ページ: <http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/fukudai-housyasen.html>

# 附属学校園の除染 放射線対応③



校庭隅のテニスコートにトレンチを掘削



遮水シートの敷設



附属幼稚園と正門道路の間の植栽除去

トレンチ埋設断面 概念図



- ① 文部科学省・日本原子力研究開発機構と協力して「学校等の校庭・園庭における空間線量低減策の検証に向けた実地調査」を附属中学校・附属幼稚園で実施。
- ② 調査結果を文科省通知「実地調査を踏まえた学校等の校庭・園庭における空間線量低減策について」として福島県内の各学校管理者に通知。(5/11)
- ③ 附属中学校・附属幼稚園の校庭表土入替工事を実施(5/22から10日間)
- ④ 同上工事による放射線量減少効果を定例記者会見で公表(グランド中央部で1/10、グランド隅で1/5-1/3に低下)(6/15)
- ⑤ 附属小学校・特別支援学校表土入替工事を実施  
(小学校:7/2~16実施、特別支援学校7/21~8/6予定)



5/25 附属中学校 校庭表土除去



6/8 埋戻しが完了したグランド

04/19 文科省・厚労省「避難区域等の外の学校等の校舎校庭等の利用判断にかかる暫定的考え方」  
 04/25 郡山市校庭園庭表土除去を発表、27日実施開始。  
 05/02 福島県知事、土壤の入替、処理法などの提示を総理大臣に要望  
 05/11 文科省「実地調査を踏まえた学校等の校庭・園庭における空間線量低減策について」

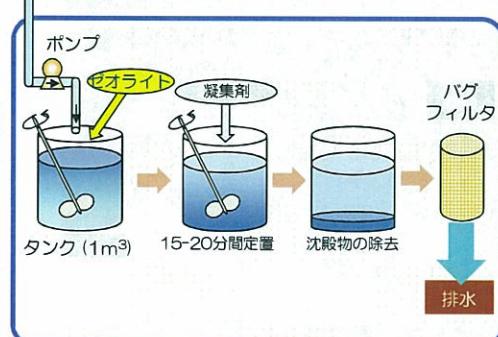
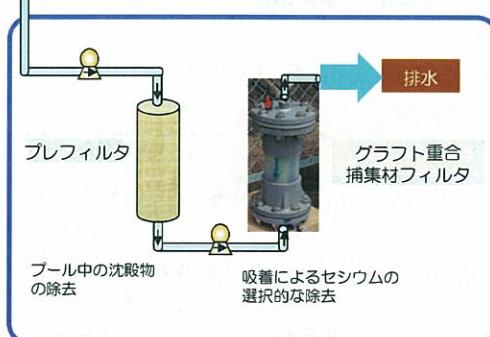
## 附属幼稚園プールの除染 放射線対応④

7月13日～17日にかけて、附属幼稚園プールの除染を実施

### プール水の浄化方法の検討



プール水は長期間たまつたままで、多量のアオコが存在





捕集材フィルタを利用した方法:(左)作業の様子、(右)捕集材フィルタ

表-1 捕集材フィルタによる放射性セシウムの低減結果(単位:Bq/l)(速報値)

	フィルタ通過前	フィルタ通過後	減少率
Cs134	169	48	71%
Cs137	218	65	70%
全セシウム	387	113	71%

表-2 ゼオライト・凝集剤の投入前および沈殿後の上澄み水の放射性セシウムの濃度(単位:Bq/l)(速報値)

	タンクA	タンクB	タンクC	タンクD	タンクE	平均
初期状態(ゼオライト投入前)	325	360	395	656	420	431
排出水(ゼオライト投入後の上澄み水)	94 (71%↓)	128 (64%↓)	169 (57%↓)	122 (81%↓)	122 (71%↓)	127 (71%↓)

## その他の放射線対応

- ① 学内教職員を対象に、放射線被ばくの健康影響の講演会を開催
- ② 学生を対象に、放射線被ばくの健康影響の講演会を開催
- ③ 放射線ガイドブックを作成し、全学生・教職員に配付
- ④ 学生・教職員対象に「福島大学放射線窓口」を開設し受付開始
- ⑤ 高精度サーベイメータを各部局に配備
- ⑥ 附属学校園ならびに学生、教職員への貸し出し用に、積算線量計を100数十台配備

# 地域に向けたアクション

## 子ども支援活動

- ①教員及び教職志望学生による学習支援・遊び支援ボランティア活動を福島県内各地の避難所で実施
- ②教員が避難所保護者を対象に「子どもの心のケア」の相談
- ③「自然体験実習」に被災児童・生徒を招待参加予定

## 地元自治体・他大学等との連携

- ①福島県知事から福島県内放射線量モニタリングの実施要望を受諾
- ②福島市、浪江町等へ放射線計測機器を貸与し、計測指導を実施(6月~)
- ③アカデミア・コンソーシアムふくしまから福島県知事に要望書「復興ビジョンにおける高等教育の重視に関する要望」を提出(6/14)
- ④福島県・福島市・文科省と協力して、福島市内小学校の校舎及び通学路の大規模洗浄実験を行い、効果を検証(6/25~1週間)
- ⑤広島大学・長崎大学・日本原子力研究開発機構と連携協定締結し、原発震災の研究活動、地元大学として学際的共同研究開始(7月)
- ⑥原子力関連特別授業を後期実施予定(放射線、原子力、放射線医学関係教員)「アカデミア・コンソーシアムふくしま」を中心として、福島県内高等教育機関と連携した教育研究・復興活動を展開

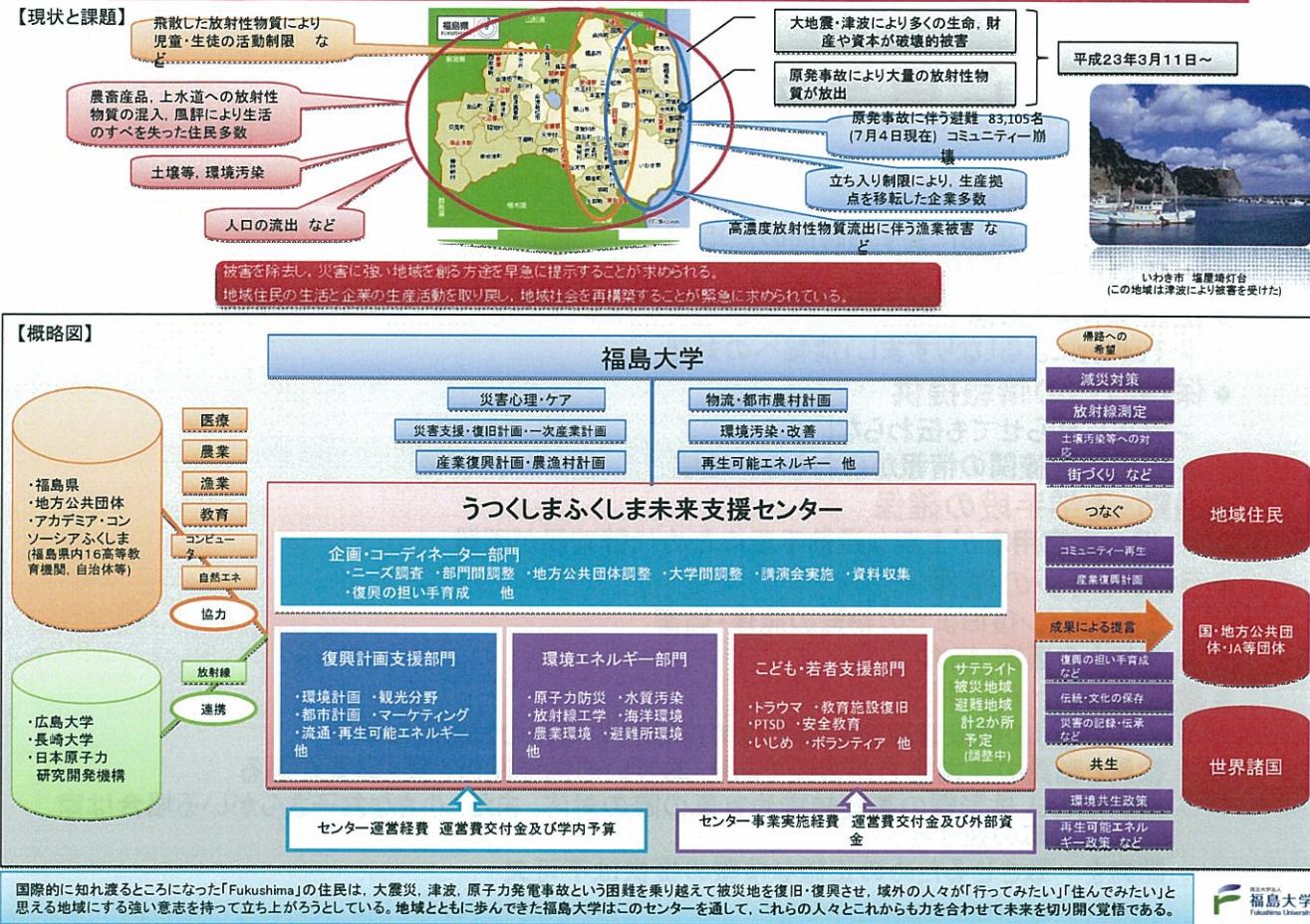


6/3 浪江町役場と放射線計測の打合せ

# 研究機関としてのアクション

- ①うつくしまふくしま未来支援センター構想  
(4.13: 第13回定例記者会見)
- ②福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト  
(4.13: 第13回定例記者会見)
- ③福島大学プロジェクト研究所「災害復興研究所」設置について  
(4.13: 第13回定例記者会見)

## うつくしまふくしま未来支援センター設置について



福島大学  
Fukushima University

38

## 学外委員会の就任・出席関係

- ① 文部科学省「放射性物質の沈着状況等調査委員」に研究担当副学長が就任(4/22)
  - ② 「福島県復興ビジョン検討委員会」の座長及び座長代行に本学名誉教授及び教授各1名が就任
  - ③ 国立大学協会「震災復興・日本再生WG」設置、学長が委員就任
  - ④ 文部科学省「福島県内で一定の放射線量が計測された学校等に通う児童生徒等の日常生活等に関する専門家ヒアリング」に総務担当副学長が出席(6/16)
  - ⑤ 中央教育審議会教育振興基本計画部会ヒアリングに学長が出席(7/4)
  - ⑥ 福島県「県民健康管理調査」の線量評価部会委員に研究担当副学長が就任(7/22)
- 等

# 対応から見えてきた課題

## ●迅速な安否確認

- 学生の安否確認に要する時間の短縮
- 電話・メールの利用が困難な状況での連絡手段

## ●正確な情報発信

- Twitterによる「なりすまし」情報への対処

## ●保護者への情報提供

- 学生に知らせても伝わらない
- 県内報道機関の情報が伝わらない地域

## ●通勤・通学手段の確保

- JRや自家用車が主要な通勤手段のため代替確保が困難

## ●ライフラインの確保

- ライフライン復旧までの物資の確保・備蓄
- 生協との連携・協力

## ●教職員の士気の維持

- 一人ひとりの健康管理が職場全体の健全性の維持のために重要
- 教員と職員の連携協力が重要であり、お互いの信頼関係を築く必要がある
- 放射能の人体影響の基礎知識や有事の際の対応、また、小さなお子さんがいる場合は家庭での対応の在り方
- 認識を一致させるための正確な情報の提供は不可欠



Thank you for your kind support.  
We believe in FUKUSHIMA!